


Freude

vol. 17-23 2024. 4. 17 wed


 4/24 (Gk) 18:30 } 東梅田教会
 5/1 (Gk) 18:30 }
 5/8 (Gk) 18:30 田比生三郎 GP (JR尾崎)
 5/15 (水) 18:30 天王寺区民.

ハイドン後期 6 大ミサって？

----- ネット受け売り知恵袋シリーズ -----

1732 年オーストリアの小村で大工の息子として生まれたハイドン、8 歳～17 歳ウィーンで聖歌隊のメンバー、変声期で退職後、約 10 年間の武者修行ののち、1761 年からハンガリーの大貴族・エステルハージ家に仕えることとなります。約 30 年に渡って楽長を務めました。1790 年、ハイドンにほれ込んでいた侯爵が死去、後を継いだ侯爵は音楽に興味が無く、他の楽団員と同様、ハイドンを解雇し、年金暮らしにしてみました。しかし、これによってハイドンは活躍の場イギリスへと広がります。

さて、そんな中、エステルハージ家ではまた侯爵の代替わりとなり、ハイドンを再び迎え入れたのです。1796 年ハイドン 64 歳。そこでエステルハージ侯爵夫人のために描かれたミサが後期 6 大ミサです。1796 年～1802 年 (64 歳～70 歳) とは、まさにフランス革命⇒ナポレオン、というヨーロッパが揺れに揺れたときでした。

パウケン・ミサ 八長調 1796 年。(大阪フロイデ 2024 年 10 月演奏曲目・絶賛練習中！)

アニュス・デイでティンパニが活躍するため『パウケン・ミサ』と呼ばれる。パウケンドイツ語でティンパニのこと。作曲当時、ハプスブルク家は第一次対仏大同盟の一員としてフランスと交戦していたが戦況は思わしくなかった。「戦時のミサ」の呼び名は当時の状況を反映している。

ソプラノ、アルト、テノール、バス独唱、4 部合唱。

オーボエ 2、クラリネット 2、ファゴット 2、ホルン 2、トランペット 2、ティンパニ、弦楽器、オルガン

ハイリッヒ・ミサ 変口長調 1796 年。

正式名称『オフフィダの聖ベルナルドのミサ』オフフィダのベルナルドは 17 世紀のカプチン・フランシスコ修道会の僧で、1795 年 5 月 19 日に教皇ピウス 6 世によって列福された。その聖名祝日である 9 月 11 日が、エステルハージ侯爵ニコラウス 2 世夫人マリア・ヘルメンギルデの聖名祝日である 9 月 8 日に近いため、両人を兼ねて賛美するためにアイゼンシュタットのベルク教会で初演された。ただし、自筆楽譜では『パウケン・ミサ』も同じ 1796 年に書かれており、どちらが先に作曲されたかについては議論が分かれる。

「ハイリッヒ」とは、本曲のサンクトゥスの中にオーストリアの古い教会音楽「Heilig, heilig, heilig, du bist allzeit heilig」が引用されていることによる (ハイリッヒはサンクトゥス (聖なる) に相当するドイツ語)。

ソプラノ、アルト、テノール、バス独唱、4 部合唱。

オーボエ 2、クラリネット 2、ファゴット 2 (ホルン 2)、トランペット 2、ティンパニ、弦楽器、オルガン

ネルソン・ミサ 二短調 1798年。(大阪フロイデ 2020年10月演奏曲目)

ナポレオンの勢いが最も盛んな時、1年足らずの間にオーストリアに対して4回も戦勝をおさめていた。その前年、1797年には、ナポレオンが率いるフランス軍はアルプスを越えウィーンを脅かしていた。1798年5月には、イギリスの交易路を絶つためにエジプトへ遠征を行っていた。

かくして、1798年の夏はオーストリアにとって恐怖の時代であり、ハイドンは作品目録において自らこの作品を「困苦の時のミサ (*Missa in Angustiis*)」と名付けた。

初演は9月15日であったが、8月1日にはナイルの海戦でホレーショ・ネルソンの率いるグレートブリテン王国艦隊がフランス艦を撃退していた。この偶然の一致ゆえ、本作品は次第に「ネルソン卿のミサ (*Lord Nelson Mass*)」と呼ばれるようになった。1800年には、ネルソン自身がエマ・ハミルトンとともにエステルハーゼ宮殿を訪れ、おそらく本作品の演奏を聴いた。この出来事によって、「ネルソン卿のミサ」という呼称は決定的なものとなった。

ソプラノ、アルト、テノール、バス独唱、4部合唱、トランペット3、ティンパニ、弦楽器、オルガン

テレジア・ミサ 変ロ長調 1799年。(大阪フロイデ 2022年2月演奏曲目)

『ネルソン・ミサ』が作曲された1798年にエステルハーゼ家の楽団には管楽器奏者がひとりもいなかったが、本曲でもトランペット以外の管楽器の活躍は少ない。(翌年、1800年に8人に増員された。)

ソプラノ、アルト、テノール、バス独唱、4部合唱。

クラリネット2 (、ファゴット)、トランペット2、ティンパニ、弦楽器、オルガン

天地創造ミサ 変ロ長調 1801年。(大阪フロイデ 2022年10月演奏曲目)

グローリアにオラトリオ『天地創造』第3部のアダムとイブの二重唱「優しき妻よ」(*Holde Gattin*)の一部が引用されているためにこの名がある。1801年はオラトリオ『四季』を完成した年にあたる。本曲は1801年7月28日に作曲を開始し、9月13日にアイゼンシュタットのベルク教会で初演されたが、すでに70歳近い老齢のために作曲ははかどらず、初演の2日前になっても完成しなかった。ホルン、トランペット、ティンパニは自筆譜には記されず、直接パート譜が作られた。また初演ではハイドンが自分でオルガンを演奏した。しかし完成した音楽そのものには急いで書いたようなところは全く見られない。

前作の『ネルソン・ミサ』や『テレジア・ミサ』では管楽器奏者が不足していたが、この曲ではふんだんに管楽器が使用されている。

ソプラノ、アルト、テノール、バス独唱、4部合唱。

オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トランペット2、ティンパニ、弦楽器、オルガン

ハルモニー・ミサ 変ロ長調 1802年。

ハイドンの後期六大ミサ曲の最後の曲であり、70歳に達したハイドンによって書かれた最後の大作でもある。「ハルモニー」とは管楽器、管楽合奏のことで、18世紀後半~19世紀前半に流行したとされる。本作では管楽器が最大規模に達している。1802年9月8日にアイゼンシュタットのベルク教会で初演された。

それまでのハイドンのミサ曲とは、キリエとベネディクトゥスの速度が逆になっている。

ソプラノ、アルト、テノール、バス独唱、4部合唱。

フルート1、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トランペット2、ティンパニ、弦楽器、オルガン